

事業番号	09 04 03	事業改善シート（令和7年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	花き振興事業		部局	農政部	課・室	園芸畜産課			
			実施期間	H8 ～	E-mail	enchiku @ pref.nagano.lg.jp			

1 現状と課題

・近年の温暖化等による気象災害や天候不順により、産地間で出荷時期が重なるなど花きの生産が不安定となっており、市場価格の下落への対応が求められている。 ・県内花き生産量は、生産者の高齢化、他作目への転換等により、年々減少しており、産地競争力の低下が懸念される。 ・花き全体の消費量は年々減少しているが、若年層については徐々に増加傾向にあり、若年層への日常における花の活用方法の提示などが求められている。
--

2 事業目的

・主要品目の生産振興、補完品目及び新品目の作付拡大により、生産者の所得向上をめざす。 ・市場価格が下落した場合に生産者へ価格差補てん金を交付し、経営の安定化を図る。 ・花きの需要を掘り起こし、生産量の増加を図ることで、生産者の収益向上をめざす。
--

3 事業目的を達成するための取組

①生産者の経営安定を図るための資金造成 ・主要花き6品目の市場価格下落時に価格差補てん金を交付するため、必要な資金を造成	 
②花きの生産力強化と花の魅力発信・日常生活への浸透の促進 ・主要・補完・新品目の生産力強化のため、国内外のニーズに応える生産体制を整え、「売れる」商品づくりを目指す産地を支援 ・イベントでの継続的なプロモーション活動や若年層を対象とした花育教室を開催	

社会人向け花育教室の開催
 （インスパーク若里）

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度		R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	推移	実績	推移	実績	推移			
①	特産花き生産出荷資金造成事業加入団体数	団体	14		14	→	14	→	14	達成	花き生産者の経営安定を図るため、事業に加入している団体数を設定。
②	一世帯当たり切り花購入金額	円	7,463		9,260	↗	8,030	↘	7,590	達成	新型コロナウイルス感染症発生前と比較して購入金額が5%増加するように目標を設定。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	☆農業農村総生産額	億円	2023 (R5)	3,911	2024 (R6)	4,278	2025 (R7)	4,684 (概算計画)	2027 (R9)	3,700

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	8,515	0	8,515	4,215	8,316	1.5
R6年度	0	8,515	0	8,515	4,215	8,288	1.5
R5年度	0	8,537	0	8,537	4,237	8,362	1.5

事業番号	09 04 03	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	■点検
事業名	花き振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課	

7 主な取組実績と成果

①生産者の経営安定を図るための資金造成

・県主要6品目（キク、スタンダードカーネーション、スプレーカーネーション、トルコギキョウ、リンドウ、アルストロメリア）の価格安定のため、長野県、JA全農長野、生産者により、資金造成率100%を達成し、セーフティネットを確実に構築することができた。

②花きの生産力強化と花の魅力発信・日常生活への浸透の促進

・高温対策技術（遮熱材の塗布、遮熱資材の検討）、LED電照を利用した開花調節技術や土壌病害抵抗性品種の実証ほ等を設置した他、補完品目の栽培技術の調査ほを設置し（14か所）、検討会を開催することにより、県、JA、生産者間で情報共有することができた。

・長野県産花きの認知度を向上させ、消費を喚起するため、大学生及び社会人を対象したフラワーアレンジメント講座を開催した（2回）。

講座終了後に参加者（大学生）へ実施したアンケート結果（43名参加、全員回答）では、ほとんど花を購入しない生徒が減少し（44.1%→6.9%）、月に1～2回購入する生徒が増加した（4.6%→23.2%）。

・「花の文化の浸透」および「花のある暮らし」の推進のため、生花店の技術者等を派遣し、小学校での花育教室を開催した（10校）。花育教室を受講した児童の家庭へのアンケート結果（279名参加、156名回答）では、ほとんど花を購入しなかった家庭は減少し（46.1%→41.6%）、月に1回程度購入する家庭が増加した（7.6%→12.1%）。

1回当りの購入金額では、1,000円未満の家庭が減少し（41%→37%）、1,000～2,000円の家庭（30%→33%）及び2,000～3,000円の家庭（12%→14%）が増加した。

・公共施設やイベント等で県産花きを展示し、国内外の消費者に対し、県産花きの認知度向上をPRを行うことができた。（10月：アリオ上田、11月：佐久市駒の里ふれあいセンター）

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	特産花き生産出荷資金造成事業加入団体数	R6年度推移	→	R7年度推移	→	達成状況	達成
-----	---------------------	--------	---	--------	---	------	----

資金造成率100%を達成することができた。

指標②	一世帯当たり切り花購入金額	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	達成
-----	---------------	--------	---	--------	---	------	----

ネット販売が定着し、これまで消費を支えていた年代（60歳以上）に加え、中・若年代の花きの購入機会は増加している。

一方で、物価高騰の影響を受け、生活必需品ではない花き類への買い控え、冠婚葬祭の小規模化により、昨年度と比較し世帯当たり消費額は減少した。

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・生産者の経営安定のために、セーフティネットを維持する必要がある。
- ・花きの生産力強化のため、全品目の共通の課題である高温対策技術の検討・普及を進める必要がある。
- ・花きの消費拡大のためには、「花きに親しむ機会の創出」と「花のある暮らし」の定着を進める必要がある。

(2) 事業改善の方策

・主要品目の経営安定化については、セーフティネットが構築されるよう、引き続きJA全農長野、生産者団体と連携しながら計画に沿って資金造成率100%を目指す。

・花きの生産力強化については、新技術や優良品種の実証ほの設置や研修会を開催し、生産技術の高位平準化を目指す。

・花きの消費拡大については、児童を対象とした花育活動を継続する他、消費量に直結する若年の社会人世代への「花を通じた体験価値」を消費に繋げる活動を強化していく。

事業番号	09 04 03	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	花き振興事業			部局	農政部	課・室	園芸畜産課	

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	特産花き生産出荷安定資金造成事業		8,100 千円	8,100 千円	8,100 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	特産花き生産出荷安定資金造成事業	補助金	主要花き（キク、スタンダードカーネーション、スプレーカーネーション、トルコギキョウ、リンドウ、アルストロメリア）の市場価格下落時に価格差補てん金を交付するため、必要な資金造成に対し補助		
			6品目に対する資金造成 8,100千円		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	信州花き生産力強化事業		262 千円	188 千円	216 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県主要品目の生産力強化	直接	主要品目の収量増加及び品質向上のために、産地での高温や病害対策技術等の実証試験を実施		
			実証試験：14か所		
2	ニーズの高い品目・品種や新規品目の検討及び推進	直接	生産者の経営安定を図るため、市場、生産者団体等と連携したニーズの高い品目や品種の選定検討会や市場調査を実施		
			検討会：2回、市場調査：2回		
3	「花のある暮らし」の推進	直接	・若年層への需要拡大、花文化の定着を図るため、小中学校、大学生や社会人向けの花育教室を開催		
			・県産花きを県内外の消費者へPRするため、公共施設やイベントで県産花きを展示		
			花育教室実施：10回、大学生及び社会人向け花育教室：2回、公共施設等での展示：2か所		